

今ここで頑張っています

理工学的思考

ボストン コンサルティング グループ パートナー&マネージング・ディレクター
秋池 玲子 (新制38回卒)



昨年秋、宇佐美先生の喜寿のお祝いに参加させていただき、先生が相変わらず若々しく活力に溢れておられることに感激した。また研究の時を共にした桐村先生や懐かしい先輩方・友人たちのお変わりないお姿に接することができたのもとても嬉しいことだった。研究室で何かを作って皆で食べたり、当時理工学部長をしておられた宇佐美先生のお部屋まで、延々とキャンパスを横切ってそれをお持ちしたりしたことなどの思い出が蘇り、楽しいひと時を過ごした。

宇佐美先生を始めとする先生方には本当に御世話になった。部下を持つ身になると、その頃の先生方のご苦労が偲ばれる。特別不真面目な学生ではないが特に有能だったわけでもない私をご指導くださったことには、どれだけ感謝しても足りないと思っている。

私は修士課程を出てから食品メーカーに就職し、その後外資系のコンサルティング会社であるマッキンゼー・アンド・カンパニーに転職した。2003年には5年限定の国のプロジェクトである産業再生機構に参加し、現在はボストンコンサルティンググループで、再び経営コンサルティングの仕事をしている。コンサルティングの経験は9年になる。産業再生機構では地方のインフラ企業の再生を手がけるという非常に貴重な経験をしたのだが、紙面の関係もあり今回はコンサルティングの話をさせていただく。

私がコンサルティング業界に加わったころは、担当したい業界としては金融が大人気。また手法としてはマーケティング分析やその利用の新しい手法などが次々に出ていた頃だった。しかし私はそれらには目もくれず、法人を顧客とし、研究開発投資の大きいタイプの製造業やハイテク産業へのコンサルティングを強く希望した。それには、優秀な研究者・技術者とその予備軍である学生を理工学部でたくさん見たことが強く関係している。そういう方々の研究開発に対する真摯な姿勢や努力の度合いを知って

いるからこそ、研究者や技術者が一層の創造性を発揮なさるような環境を作ったり、それらの成果を世に出したりする御手伝いをしたいと思うようになったのだ。希望がなくなって私は通信機器、半導体、素材産業、ソフトウェア分野のクライアント企業のコンサルティングを長くさせていただいている。テーマとしては、世界に向けた成長戦略作成とそれを実現するための支援、研究開発分野への適切な投資のあり方や研究者・技術者の人事処遇制度などの経営課題、まだ製品になっていない先端技術の営業方法向上など多岐に渡る。テーマが何だったとしても、優れた技術的成果を世に出したい、企業の継続的な成長に結び付けたいという思いで取り組んでいる。

コンサルティングは「構造化してものごとをとらえる」「仮説を立て、それを検証する」「出した結果を再び構造化して人に分かりやすく伝える」という、理工学部で知らず知らずの内に身につけた手法が生きる世界である。レポート提出では1秒たりとも締め切りに遅れることが許されない、寝ていなくても実験や授業には絶対に遅刻しない、という理工学部で厳しく仕込まれた行儀作法もまた、お客様相手の仕事なので非常に役に立っている。年を取るとはすばらしいことで当時は理解できなかったそれらルールにどのような意図があったのか、分かるようになるものだ。社会に出ればほんの少しの遅れですべてを失うこともあるのだ。

私はこれからも技術力を持つ企業のお手伝いを続けるつもりである。そのことを通して、日本が国際競争力を増すことへ、微力ながらお役に立てればとも思っている。

それが、研究者・技術者にならなかった私の、宇佐美先生を始めとする理工学部の先生・先輩方や友人たちへのせめてもの恩返しなのである。